地域密着型サービス評価の自己評価票

（　　部分は外部評価との共通評価項目です　）

取り組んでいきたい項目

	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	**○地域密着型サービスとしての理念** 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で作成した目標にむけて努力している。		
2	**○理念の共有と日々の取り組み** 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をリビング、玄関の見えやすい所に掲示し、実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	**○家族や地域への理念の浸透** 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族には「椿の里」だよりでお知らせし、理解してもらっているが、地域にむけては取り組めてない。	○	運営推進会議に自治会長、福祉委員さんに参加してもらえるように声掛けしたい。
2．地域との支えあい				
4	**○隣近所とのつきあい** 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	社会福祉法人の中のグループホームであり、施設の奥まった所にあるため一般の方は立ち寄りにくい。散歩の途中挨拶をする程度である。		
5	**○地域とのつきあい** 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	同法人が夏祭りを開催して地域の方に来てもらったり、公民館の文化祭に作品を出品したり、見学をしている。見学時、昔馴染みの地域の方と話をすることもある。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	**○事業所の力を活かした地域貢献** 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	在宅支援センターに協力、支援を申し出ているが機会がない。職員個人としては職員の地域の人や友人の介護相談にのることは多い。	○	
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	**○評価の意義の理解と活用** 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価を行い、今までの支援、これからの支援について話し合っている。自己満足に終わらないように気をつけている。		
8	**○運営推進会議を活かした取り組み** 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でいろんな報告をしている。外部評価で地域とのつながりが不十分と指摘されたことについては、法人全体では出来ているのでいいのではと、発言がありました。	○	全職員、利用者,家族に運営推進会議の内容を報告する。
9	**○市町村との連携** 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者は市の運営推進会議に参加し、交流をしている。市より介護相談員に来て貰っている。		
10	**○権利擁護に関する制度の理解と活用** 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	福岡県高齢者グループホーム協議会の研修、勉強会に参加し、学んでいる。		
11	**○虐待の防止の徹底** 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修会で勉強してきたり、法人の身体拘束会議に参加して、その結果をグループホームに持ち帰り、防止に努めている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4．理念を実践するための体制				
12	**○契約に関する説明と納得** 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明をきちんと行い、理解、納得して貰っている。		
13	**○運営に関する利用者意見の反映** 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中で職員と落ち着いて話せる時間を持ったり、市より介護相談員に毎月来て貰っている。		
14	**○家族等への報告** 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の椿の里だより、面会時の報告で知らせている。急な場合は電話をかけ知らせている。		
15	**○運営に関する家族等意見の反映** 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情窓口を掲示し、苦情箱を置いている。家族懇談会で運営者、職員と交流している。		
16	**○運営に関する職員意見の反映** 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度グループホーム会議、ミーティングで話し合ったりしている。法人の代表者会議で発表することもある。		
17	**○柔軟な対応に向けた勤務調整** 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員は理解できており、急な受診の時など、協力がある。		
18	**○職員の異動等による影響への配慮** 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動が少ない。定年退職した元職員は時々顔出しし、利用者とも交流している。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5．人材の育成と支援				
19	**○人権の尊重** 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員につても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	採用時、性別、年齢制限はない。職員に対して資格取得できるよう配慮している。		
20	**○人権教育・啓発活動** 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	運営者は人権教育を理解しており、新人研修、代表者会議、職員全体会議等、機会ある度、職員に伝えている。		
21	**○職員を育てる取り組み** 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらﾄﾚｰﾆングしていくことを進めている	管理者、計画作成者の変更があり、研修をうけた。また介護福祉士、介護支援専門員資格取得にも協力している。		
22	**○同業者との交流を通じた向上** 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ﾈｯﾄﾜｰｸづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会Fブロックで交流を持ち、昨年は稲築公園で合同で職員、利用者が参加した花見を開催した。		
23	**○職員のｽﾄﾚｽ軽減に向けた取り組み** 運営者は、管理者や職員のｽﾄﾚｽを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人の忘年会、歓送迎会があり、運営者は必ず職員に労いの言葉をかけてくれる。また有休は取りやすいように配慮がある。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	**○向上心を持って働き続けるための取り組み** 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務年数、資格、勤務状況を把握している。研修会報告書など参考にしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	**○初期に築く本人との信頼関係** 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学に来られたときお茶を出してゆっくりして貰ったり、入所前、自宅に会いに行っている。入所前利用者、家族、ケアマネジャーより情報収集している。		
26	**○初期に築く家族との信頼関係** 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前より家族、利用者、ケアマネジャーより情報収集し、家族が納得して、安心して利用者を預けられるようにしている。		
27	**○初期対応の見極めと支援** 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入所申込を受け付ける以外にショートステイ、ディサービス、施設を紹介をしている。		
28	**○馴染みながらのサービス利用** 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前にお茶を飲みにきて貰ったり、精神が安定しているときに入所して貰うようにしている。入所後は入所前利用していたディサービスに遊びに行ってもらっている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	**○本人と共に過ごし支えあう関係** 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員の手伝いをして貰った時は必ず、感謝の言葉を伝えている。お茶、食事、ゲーム、散歩など一緒に楽しんでいる。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	**○本人を共に支えあう家族との関係** 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族参加の行事を計画している。誕生日には家族を招待し、一緒に祝っている。		
31	**○本人と家族のよりよい関係に向けた支援** これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所時の　利用者、家族の聞き取りを参考に、家族が負担に思わぬように声掛けしている。		
32	**○馴染みの人や場との関係継続の支援** 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会にきてもらえ易いよう、電話をかけてき易いように声掛けしている。利用者の馴染みのスーパーに買い物にお連れしている。		
33	**○利用者同士の関係の支援** 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	耳が遠く、会話が中途半端に聞こえ、意味が通じず、頭が混乱される方、短気な為大きな声を出しやすい方など,職員は利用者の事を把握しており,仲裁に入るようにしている。仲がいい同士ソファーの位置を工夫したり、仲がいい同士外出できるように配慮している。		
34	**○関係を断ち切らない取り組み** サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	法人内の特養に移動された方と家族がグループホームに遊びに来られたり、また職員が特養に訪ねている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **1．一人ひとりの把握**				
35	**○思いや意向の把握** 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思の確認の困難な方は、日常の会話より利用者の気持ちをくみ取り、ケアに生かしている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	**○これまでの暮らしの把握** 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメント、普段の会話の中より、利用者の生活歴を把握している。面会に来られた知人からも情報収集している。		
37	**○暮らしの現状の把握** 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	普段の生活の様子は毎日詳しく申し送りし、介護日誌、個人記録、連絡ノート、ケア会議で職員全員確認し、把握している。		
38	**○チームでつくる利用者本位の介護計画** 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	3ヶ月に1度、様態の変化があった時、ケア会議で介護計画の見直しをしている。事前に家族に意見、要望など聞いたり、会議に参加してもらっている。		
39	**○現状に即した介護計画の見直し** 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	退院後や骨折した時などは速やかにケア会議を行い、本人、家族、担当医の意見、意向を踏まえケアマネジャーを中心に全職員で計画を作成している。		
40	**○個別の記録と実践への反映** 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、介護日誌、連絡ノート、朝夕の申し送りを利用し、情報を共有し、ケアプランに生かしてる。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
41	**○事業所の多機能性を活かした支援** 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同じ法人のディサービス、特養の備品(自動車、車椅子、ゲーム)を借りたり、特養と共同で行事を行っている。昨年、常時、医療行為が必要になられた方は特養に移動された。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	**○地域資源との協働** 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	避難訓練の時、消防署と連携している。以前パッチワークの先生がボランティアに来られていたが、利用者が重度化し、出来なくなり今はしていない。	○	利用者の様態が変わってきており、今の利用者の能力に合ったことを考えていきたい。
43	**○他のサービスの活用支援** 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今は利用者がいない。昨年は医療保険でマッサージを利用されたかたがおられた。必要時、考えたい。		
44	**○地域包括支援センターとの協働** 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、必要な方が居られない。必要時、協働できるように、つながりはもっている。		
45	**○かかりつけ医の受診支援** 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族が希望する病院に、家族と一緒に受診、職員と一緒に受診している。		
46	**○認知症の専門医等の受診支援** 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医に普段の生活を細かく報告し、相談にのって貰っている。グループホーム内のことも気軽に相談できている。		
47	**○看護職との協働** 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設の特養の看護師が気軽に相談に乗ってくれる。医師の指示で点滴などの医療行為もしてくれている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	**○早期退院に向けた医療機関との協働** 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	近くの市立病院に入院することが多く、面会に頻回に行って家族、病院関係者と会い利用者の情報を得るようにしている。		利用者が忘れないで退院後安心してグループホームに戻れるように面会に頻回に行っている。
49	**○重度化や終末期に向けた方針の共有** 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化し、常時の医療行為が必要になった時のことを考え、併設の特養に入所申し込をしてもらっている。		
50	**○重度化や終末期に向けたチームでの支援** 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看護職が常時いないため、医療行為にも限界がある。	○	常時の医療行為が必要ない程度で介護職でできる範囲なら重度化しても家族と共に支援を続けたいです。
51	**○住み替え時の協働によるダメージの防止** 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	昨年、併設の特要に移動された方がおられる。特養側に十分な情報提供したり、グループホームの職員が面会に行っている。グループホームに入所直後は、家族の面会、電話などで様子を見ている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** **(1) 一人ひとりの尊重**				
52	**○プライバシーの確保の徹底** 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉を選んで、そのままの行為を記録をするようにしている。	○	説明しても、忘れられる為、理解できず利用者、職員ともに困ることがあるので工夫していきたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	**○利用者の希望の表出や自己決定の支援** 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	他者に遠慮せずに話せるように個別に話を聞いたり、他者の意見を聞いて思いついて発言しやすいように皆の中で尋ねたり、選択肢を絞って選び易くしたりと個々に合わせ対応している。		
54	**○日々のその人らしい暮らし** 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩は天気、利用者の雰囲気を察し誘っている。皆で行うレクレーションも一人ひとり参加、不参加を尋ねている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	**○身だしなみやおしゃれの支援** その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	髪を伸ばされている方、家族と美容室に行かれる方、職員が美容室にお連れする方がおられる。		職員は利用者にやさしい美容室を探したり、重度でも利用できる美容室を探しお連れしている。
56	**○食事を楽しむことのできる支援** 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を立てる時に希望を聞いたり、利用者の出来る力に応じ、茶碗拭き、野菜の下ごしらえ、盛り付け等、一緒にしてもっらている。		
57	**○本人の嗜好の支援** 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	今はお酒を希望される方はいません。夕食後のおやつ、牛乳の嫌いな方にはお茶など利用者の希望をきいている。		
58	**○気持よい排泄の支援** 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意の訴えのない方も排泄チェック表を参考に2,3時間毎に、トイレ誘導している。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	**○入浴を楽しむことができる支援** 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	重度で二人介助入浴方は週3回入浴してもらっているが、その他の方は毎日入浴できる。入浴前に利用者の希望を尋ね希望される方、体調の良い方に入浴してもっらている。		
60	**○安眠や休息の支援** 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中はﾘﾋﾞﾝｸﾞの畳の上に布団を敷き休んでもっらたり、ソファーで休んでもっらたり、その時の体調で休む場所が違う方がおられる。又、就寝時間も7時から11時と利用者の好きな時間に休んでもっらている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	**○役割、楽しみごと、気晴らしの支援** 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、料理の盛り付け、茶碗拭き、雑巾縫いなどしてくださる。コーヒー好きな方と一緒に近くの喫茶店に行ったり、買い物に誘っている。		
62	**○お金の所持や使うことの支援** 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	だんだんお金の管理が出来る方が減っている。財布を深直しし、探すことが出来ない方には、事務室で財布を預かり、買い物の時、外出時に渡している。		
63	**○日常的な外出支援** 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日は出来るだけ散歩にお誘いしたり、自由に併設のディサービス、特養に出掛けている。		
64	**○普段行けない場所への外出支援** 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	全員でお花見に出かけたり、希望者と映画館、美術館など出かけたり、家族参加のピクニックを計画した。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	**○電話や手紙の支援** 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入所が長くなってきており、自分から電話をかけたいと言われることが少なくなっているので母の日、誕生日のプレゼントのお礼の電話を掛けてみませんかと声かけしている。		毎年年賀状は一人ずつ書いていただき家族に送っている。
66	**○家族や馴染みの人の訪問支援** 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時、利用者、訪問者の希望に合わせ居室、ﾘﾋﾞﾝｸﾞでお茶を飲みながらゆっくり、過ごしてもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	**○身体拘束をしないケアの実践** 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設の事業所と一緒に身体拘束会議を毎月行い、それをグループホームのケア会議で報告している。外部の研修会にも参加し勉強している。		
68	**○鍵をかけないケアの実践** 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の戸締りだけ行い、日中は鍵はかけていない。一人で自由に出入りされる方でも玄関を出たところが駐車場であり、見守りは行っている。		
69	**○利用者の安全確認** 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の行動パターンを職員は把握している。夜間ﾄｲﾚ介助が必要でもコールで知らせることが出来ない方には家族、利用者に承諾を得てセンサーをつけ動きがあればさりげなく介助に伺っている。		
70	**○注意の必要な物品の保管・管理** 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	針、はさみを使用されるが、なくされることが多く、危険なため職員が毎日数をチェックして、自分で持ってもらっている方がいる。		
71	**○事故防止のための取り組み** 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	家族の同意を得て、動きを感知するセンサーをつけ、夜間ﾄｲﾚが分からない方をﾄｲﾚ誘導したり、転倒の危険がある方にはベッド横にクッションマット敷いている。		ﾋﾔﾘ・ﾊｯﾄ、事故報告があがると、即何らかの対応をとっている。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	**○急変や事故発生時の備え** 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	開所当時は勉強会をしていたが最近はしていない。マニュアルはある。	○	併設の施設の勉強会に参加し、再確認をしたい。
73	**○災害対策** 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年2回行っている。地域の協力が得られるように施設長が働きかけている。	○	夜間想定避難訓練をマニュアル作りした後、行ってみたい。
74	**○リスク対応に関する家族等との話し合い** 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	面会時、ケアプラン作成時、家族に普通の生活が送れる様、それに伴い、リスクがあることを説明し、利用者本位に考えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	**○体調変化の早期発見と対応** 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段と違う時は職員で病気かどうか話し合ったり、特養看護師に報告し、助言をもらっている。運営者にも随時報告している。		
76	**○服薬支援** 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者の持病,薬の効能は理解している。新しい薬が処方されたときは、説明書で確認している。		
77	**○便秘の予防と対応** 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	体操、散歩して体を動かすようにしている。排便困難な方には腹部マッサージをしたり、緩下剤を使用している。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	**○口腔内の清潔保持** 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、全員に歯磨きの声掛け、磨き直し介助、全介助している。		
79	**○栄養摂取や水分確保の支援** 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を記録し、少なくならないように気をつけている。		冬になり、食後のお茶の飲まれる量が少ないので、食前にお茶を飲んでもらっている。
80	**○感染症予防** 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	2ヶ月に1回、必要時、併設の施設と感染症会議を行っている。マニュアルを作っている。ノロウイルス発生時対処グッズを用意している。		
81	**○食材の管理** 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、布巾、冷蔵庫は定期的に消毒している。冷蔵庫、食品庫の食材のチェックも定期的にしている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（1）居心地のよい環境づくり**				
82	**○安心して出入りできる玄関まわりの工夫** 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の花を飾ったり、プランターを置いている。靴の脱ぎ履きしやすいようにベンチを置いている。夏場はガラス戸を開け、開放的に網戸にしている。		
83	**○居心地のよい共用空間づくり** 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、ﾄｲﾚ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光、室温、テレビの音量はいつも気をつけている。加湿器は以前より設置していたが、最近湿度計を設置し、湿度のチェックしている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	**○共用空間における一人ひとりの居場所づくり** 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いリビングにソファー4台、食卓、畳の間がある。最近ホットカーペットを設置し、そこで日向ぼっこされたり、新聞を読まれる方がいる。		
85	**○居心地よく過ごせる居室の配慮** 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知に合わせ、家族が準備されている。ベッドの位置を指定される利用者の方がおられる。仏壇、マッッサージ機を持って来れている方、家族写真を家族が定期的に張り替えに来られる方がおられる。		
86	**○換気・空調の配慮** 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室は定期的に換気、エアコン調節している。リビングは常時、職員、利用者がおる場所であり、常に気をつけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	**○身体機能を活かした安全な環境づくり** 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリー設計であり、手すりもついている。家具、ベッドの置き方を変え伝い歩きしやすいようにしている。利用者がトイレットペーパーを取りにくく、トイレットペーパーホルダーの位置を低くし、利用者が取り易いようした。		
88	**○わかる力を活かした環境づくり** 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室が分からない方の部屋の入り口に写真をつけたり、トイレに「お手洗い」「トイレ」と書き分かるようにしている。		
89	**○建物の外周りや空間の活用** 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	以前は草取りをされる方が居られたが今は出来なくなられた。天気のよい日に庭で食事、そうめん流しをしたり、居間から見えるところに花を植え,楽しめるようにしている。		

Ⅴ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者が普通の家庭での送る生活と同じ生活が送れるように職員は考え、食事を作り、身の回りの世話をし、一緒に外出し、一緒にくつろいでいます。利用者の笑顔が見たくて職員は頑張っています。